

公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 基本方針	
東北北海道ブロック協議会 会長 梶原 成悟	
ブロック協議会の理想の未来	信頼がもたらす共存共栄組織を構築することで 変えたのだと誇れる東北北海道の未来へ JC の理念や日本 JC の構築した運動の情報を発信し、JC、市民、行政、関係諸団体と連携を深めることで、地域社会や組織内で起きる課題に対応する柔軟性と効率性を高めます。東北北海道ブロック協議会全体で東北北海道ブロック内 LOM の課題を真摯に受け止め、解決を目指すという主体性を持ち尊重を何よりも先に念頭におき行動し続け、支援が不要になり、運動を起こせる LOM が多数存在する東北北海道ブロック協議会を目指して希望あふれる理想を描き未来を創造します。
ブロック協議会の役割	東北北海道ブロック LOM メンバーの減少率は早急に対応していかなければならない大きな課題です。そこでブロック協議会が支援を行い、経験年数が短い理事長が増え、自身の LOM の使命を明確にもてない要支援 LOM と対話をし続け運動を起こせるよう支援をしていかなければなりません。その方法は日本 JC の運動を参考にし、各 LOM でも効果的に運動を起こせるという可能性と一助を東北北海道ブロック協議会が率先して行動しかなければなりません。ブロック協議会がハブとなり各 LOM が連携をとり、希望あふれる理想を描ける未来を目指します。
ブロック連携事業 (政策手法)	1. 各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究 各地域から全体最適化が可能な質の高い事業を収集することで、地域間の連携を強化し、外部からの視点を取り入れ地域の魅力を発掘します。その魅力を地域内の各種ステークホルダーや地域間の協力により、各地で使える枠組みにして全国に広めることを目的とします。 2. 地域に眠る活用しきれていない資源の調査・発掘・研究 年間を通じて、地域に眠る活用しきれていない資源を外部の視点を交えて調査発掘をします。有識者や、関係機関と連携し、経済活動として利益を生み出しつつ環境保全にも貢献する好循環モデルを研究します。 3. 誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援 JC プログラムの JCI Achieve や JCI Impact をブロック協議会主導で開催します。地域の課題を見出し、地域社会を巻き込んだ事業を行うための JCI アクションフレーム(JAF)を活用し、社会参加の概念や地域コミュニティのニーズの分析で運動構築のヒントを得ることを目的に各 LOM と連携しながら支援を行います。 4. ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用 組織を活性化させるためにはメンバーが共通の価値観を持つことが不可欠ですが、現状は JC 在籍歴が短いメンバーが多く、必ずしも価値観が統一できていない状態にあります。まずは各地域に共通して適用できる育成カリキュラムを、協議会と連携して実施する必要があります。 JAYCEE 育成カリキュラムの運用支援を行い、共通の価値観をもったリーダーたる人財を育成することで、組織を前進させることを目指します。 5. 理念共感拡大グランドデザインの検証 人が自然と集まる組織をビジョンに掲げた中期計画の理念共感拡大グランドデザインが最終年度をむかえるにあたり、現状の把握と 5 年間の効果について調査する必要があります。理念浸透サーベイの実施とその分析を軸に、目標達成に向けた理念浸透率や具体的なアクションの促進状況について日本 JC と各 LOM と連携し、検証を行います。

ブロック協議会 独自の事業	1.徹底的な LOM 支援の実施
	【背景】 東北海道ブロック協議会では、会員数減少が顕著な課題であり、15LOM 中 6LOM(約 40%)が要支援 LOM 対象となっており、数年以内に解散もしくは消滅の可能性があります。LOM の発展には、青年会議所の魅力を発信する運動に取り組んでいく必要が有りますが、会員数の減少や経験年数の不足など、運動実施に対する課題が山積し、将来に不安を抱えた LOM が多く存在します。東北海道ブロック内で多くの運動を展開するためには早急にブロック協議会一丸となって解決に向かわなければなりません。また、青年会議所だけではなく、北海道としても消滅可能性自治体が 65%以上を占めており、自身 LOM だけではなく住まう地域として課題解決を目指すことが必要です。 【目的】 各 LOM 理事長をはじめとしたメンバーと対話を重ね、LOM の求めているものを調査、研究を継続しながら、様々な形で運動を提案し、実施を東北海道ブロック協議会と共に実施いたします。運動を構築する成功体験を得る事で要支援 LOM は、希望を描ける未来へと向かう LOM に昇華することを目的といたします。 【手法】 LOM メンバーが減少し、効果的な運動が展開できない要支援 LOM を東北海道ブロック協議会は数多く抱えています。まずはメンバーが 1 桁台の LOM を対象に、1 年間を通して、理事長始めとするメンバーと徹底的な対話を繰り返し、何故なんのために青年会議所が地域に存在しており、各 LOM の理想に向かうためには必要なことなどの調査・研究をともに実施し続けます。ブロック会議や LOM で集まる機会を活用し、各地理事長とブロック役員との懇親を図れる場を設え、対話し、運動が展開できる土台を作るためにどのような行動をしていかなければならないかをディスカッションいたします。中長期ビジョンを策定し、要支援 LOM にターゲットを絞り、小さくてもまずは成果を残すために、運動の 1 から構築するのではなく、自治体の地域支援を目的とした支援内容を青年会議所のコネクションを用いて、自治体や各地域メディアとの連携、要支援 LOM に見合った内容で再構築し運動を起こしてまいります。そうすることで、地域との連携が深まり、資金や人財不足の要支援 LOM でも自身で運動を起こしたという成功体験が生まれ、継続的に運動を展開する LOM に昇華いたします。また LOM が存続できる様々な形を LOM に提案し、東北海道ブロック協議会内の LOM がより良く昇華できるよう行動を起こすことで、日本で 1 番運動が展開されるブロックの第一歩目を歩みだし希望あるふれる理想を描ける未来を目指します。
	2.運動を展開するための LOM 連携の強化
	【背景】 東北海道ブロック協議会は、日本一運動が展開される未来を描きます。そこで多くの LOM が自発的に運動を構築し、実施できるように要支援 LOM と各地 LOM との連携が今以上に必要です。 【目的】 会員数減少により効果的に運動が展開されないことや、事業構築、会員拡大で悩まれている要支援 LOM に対して、東北海道ブロック協議会だけではなく多くの近隣 LOM と連携強化を図り、人財不足などの不安要素を取り除き、運動の展開を行うことを目的といたします。 【手法】 徹底的な LOM 支援を行い、事業や例会が実施できていない課題を解決すべく、近隣 LOM との連携を図ります。また、要支援 LOM にはモチベーションの高い LOM との連携が有効的な手法であり、東北海

	道ブロックが持続的な発展を遂げるには、様々なパートナーシップを組み、防災のみならず経済活動や事業などの連携を図ることで、運動を実行できるようにすることが重要であり、その後 PDCA を行いながらさらに展開していく日本 JC の運動を効果的取り入れ、東北北海道ブロック協議会は日本一青年会議所運動が展開されるブロックを目指していきます。
	3. 定期的なワークショップの実施
	【背景】 入会 3 年未満のメンバーが増えてきている東北北海道ブロック協議会では、議案構築方法や例会の意義、マナーなどの LOM が長年積み上げてきた理念が浸透することが難しくなっている現状において、何故なんのために青年会議所が存在するかを知る機会が必要です。 【目的】 何故なんのために青年会議所が存在するかを、入会 3 年未満のメンバーが濃密な時間を過ごし、まち創りへの好奇心が生まれるような機会の創出を目的といたします。 【手法】 日本 JC からのブロック連携にて実施するブロックアカデミーの他に、ワークショップを開催し、実際に地域を変えたのだと実感のできる事業構築から実施までを入会 3 年未満のメンバーに 1 年間を通して行っていきます。ただ事業構築をするだけではなく、通常のまち創りと同様に、次年度への引継きも行い、単年度ではなくブロックアカデミー制度が今後も継続し、持続的な支援になるようにいたします。
	東北北海道ブロック大会の実施
	【背景】 エリアとして永きに亘り、普遍の絆や友情を育み、運動継承してきました。今後は東北北海道ブロック協議会として旧エリアの垣根を越えたコミュニケーションと地域の課題解決に向けた運動を進めていかなければなりません。各 LOM が効果的な運動発信を行う意識を醸成することが必要です。 【目的】 ブロック協議会や LOM の運動を発信し、次年度へつなげることを目的といたします。 【手法】 本年度から 2 ブロック制に分かれ走り出した東北北海道ブロックが 1 年間かけて行ってきたことを各 LOM や地域に発信することで次年度へのリレーションを行い、持続的に運動が展開されるブロック協議会を創出いたします。またブロック大会を継続的に開催が可能にするために、地域連携、企業連携など各 LOM に発展の機会を創出するコンテンツを目指していきます。
ブロックによる LOM 支援の 実施内容	1.各理事長と連携し、LOM との相互理解を図りながら、情報を速やかに提供する。 2.ブロックアカデミーを中心にワークショップ(JC プログラム含む)を定期開催する。 3.ブロック会長公式訪問(全 LOM 巡回)を開催し、LOM へ適切な支援をする。